

2019年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、中央シベリア～アラスカ南部、グリーンランドの西で正偏差、カムチャツカ半島の南東海上、ヨーロッパの西海上で負偏差となった。200hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は東アジアでは南北に蛇行した。海面気圧をみると、ラプテフ海～アラスカ南西部、グリーンランド周辺で正偏差、北太平洋の北緯40度帯、カナダ東部、英国付近で負偏差だった。850hPa 気温をみると、中央シベリア及びその周辺、アラスカ南部付近、米国～メキシコ、グリーンランドの西、ヨーロッパ東部で高温偏差、カムチャツカ半島の南海上、カナダ北西部で低温偏差だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋北東部、フィリピンの東海上で活発、インド洋熱帯域の南東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にインドネシア付近に位置した後、中旬から下旬にかけて太平洋～南米～インド洋を東進し、月末にはインドネシア付近に位置した。対流圏上層では、アフリカ北西部周辺、フィリピン～日本の南東海上、南大西洋～インド洋南部で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、アフリカ北部、アラビア海、東アジア南東部で低気圧性循環偏差、北インド洋熱帯域の東部～フィリピンの南東海上で高気圧性循環偏差となった。太平洋熱帯域の中・東部付近では南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤

道域では、インド洋東部～インドネシア、太平洋東部～アフリカで正偏差、インド洋西部、日付変更線付近で負偏差となった。南方振動指数は-0.2だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.42°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、8月として3番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.69°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

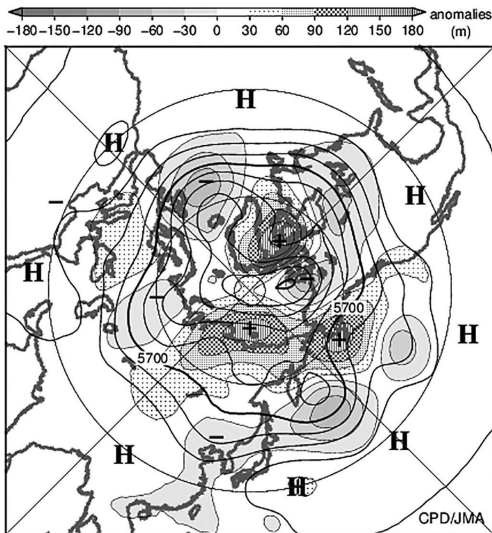
- シベリア北部及びその周辺、モンゴル西部～中国北西部、中国東部、中国南西部～インド北東部、東南アジア中部及びその周辺、ヨーロッパ東部～北アフリカ西部、西アフリカ南部～西部、ケニア～モーリシャス、米国西部～南米北西部、ブラジル北部～東部で異常高温となった。
- 南アジア南部及びその周辺、ヨーロッパ南西部～北アフリカ西部、西アフリカ中部、米国中部で異常多雨、ヨーロッパ東部～中部、メキシコ東部～南米北西部、南米南部で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

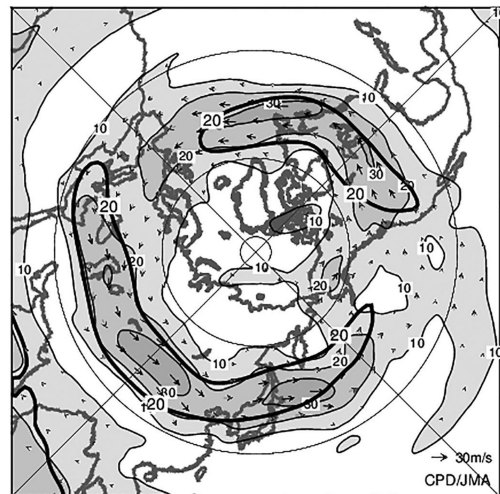
「気候系監視速報」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



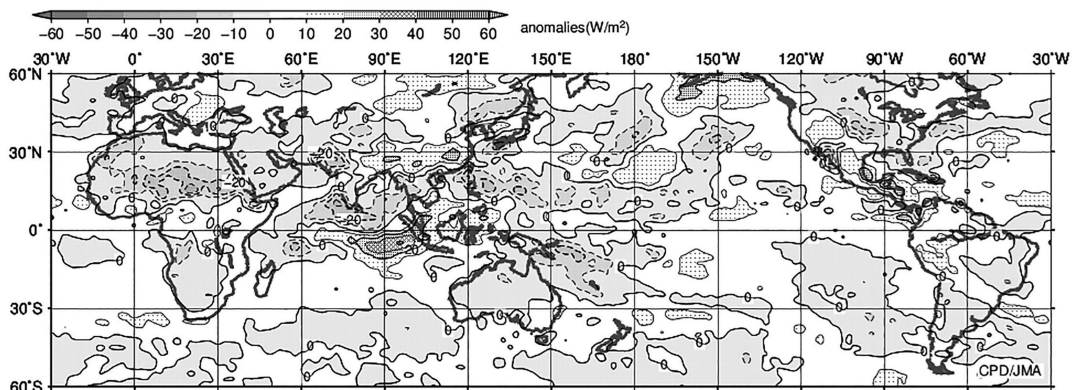
2019年8月の北半球月平均500hPa高度及び平年偏差

等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



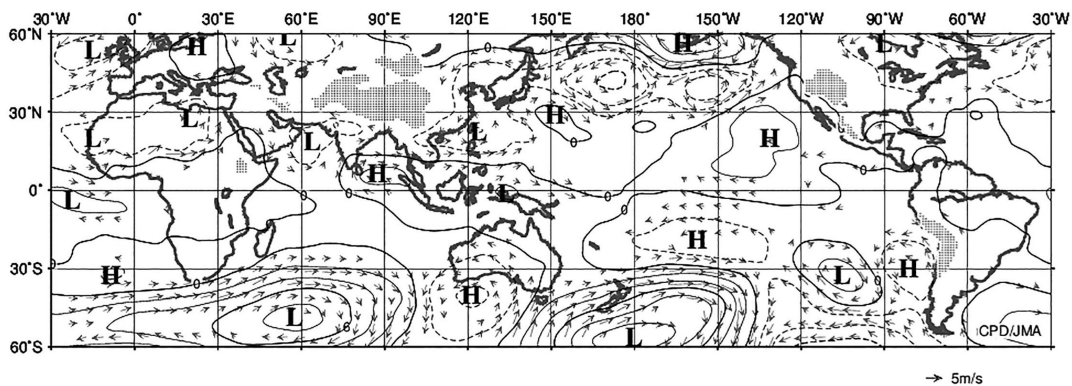
2019年8月の北半球月平均200hPa風速及び風ベクトル

等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



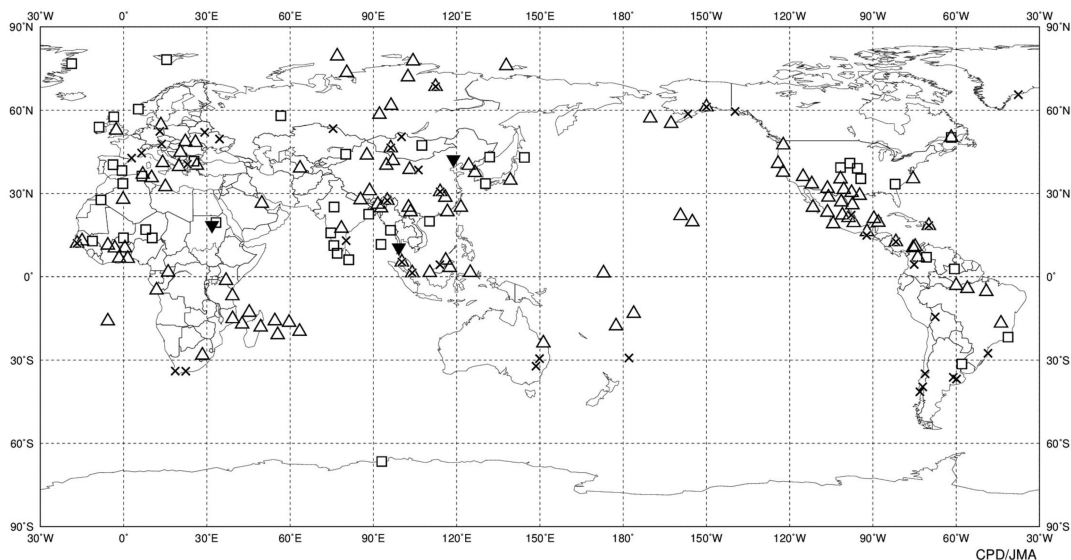
2019年8月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2019年8月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2019年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。